

## 引用文献

- アン, J. デービス, アン・ギャラガー, 見藤隆子 (2007). 看護倫理～日本文化に根ざした看護倫理とは～. 株式会社医学映像教育センター. 33.
- 麻原きよみ (2009). 在宅ケアにおける倫理的問題と今後の課題. 日本在宅ケア学会誌, 11(2), 26-29.
- Beauchamp, T. L & Childress, J. F (2001). 生命医学倫理第5版. 立木教夫・足立智孝訳 (2009) 麗澤大学出版会. 94.
- Beauchamp, T. L & Childress, J. F (2001). 生命医学倫理第5版. 立木教夫・足立智孝訳 (2009) 麗澤大学出版会. 140
- Beauchamp, T. L & Childress, J. F (2001). 生命医学倫理第5版. 立木教夫・足立智孝訳 (2009) 麗澤大学出版会. 205
- Beauchamp, T. L & Childress, J. F (2001). 生命医学倫理第5版. 立木教夫・足立智孝訳 (2009) 麗澤大学出版会. 279
- 藤田冬子 (2007). 医療機関における認知症のターミナルケアとその実践. 老年精神医学雑誌, 18(9), 946-952.
- 石井トク (2002). 看護の倫理学. 丸善株式会社. 16.
- 伊藤晃, 加藤ふみ, 森弘卓延他 (2007). 高齢者の腎不全と透析導入の可否. 臨床透析, 23(8), 1259-1265.
- 岩本テルヨ, 田中愛子, 大林雅之 (2002). 在宅医療における看護師の直面する倫理的問題; 医療行為をめぐって. 生命倫理, 12(1), 99-107
- Jonsen, A. R, Siegler, M & Winslade, W. J. (1992). 臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ. 赤林朗・大井玄監訳 (1997). 新興医学出版社, 208-221
- 川本隆史 (2006). ケア、ケアリング. 大庭健. 現代倫理学事典. 弘文堂. 216-218.
- 金田一京助, 山田忠雄, 柴田武, 酒井憲二, 倉持保男, 山田明雄 (1997). 新明解国語辞典第5版. 三省堂. 1481.
- 広辞苑第6版 (2006). 岩波書店. 2973.
- 加茂直樹 (2008). 生命倫理の今日的課題. 伏木信次・榎則章・霜田求編. 生命倫理と医療倫理第2版. 2. 金芳堂.
- 小西恵美子, 八尋道子, 彭美滋, 他 (2011). 看護倫理よい看護・よい看護師への道しるべ. 南江堂. 11-26
- 厚生労働省 (2007). 終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン
- 厚生労働省 (2007). 第5次医療法改正医療法, 医療法第5章第30条
- 厚生労働省第19回新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム. 朝田構成員提出資料. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001kmqo.html> [2011-11-2]

厚生労働省（2010）．居宅介護支援事業所におけるサービスの実態に関する調査研究  
習田明裕，志自岐康子，川村佐和子，他（2002）．訪問看護における倫理的課．東京保  
健科学学会誌，1.5(3)，144-151.

日本看護協会．看護倫理基礎知識編、倫理原則

<http://www.nurse.or.jp/rinri/basis/rule/index.html>[2011 - 12 - 25]

日本神経学会（2010）．認知症疾患治療ガイドライン．医学書院．145.

箕岡真子，稲葉一人（2006）．介護保険制度化における高齢者介護に関する倫理的問題  
と今後の課題．生命倫理（16）1，122-129.

箕岡真子，稲葉一人（2007）．終末期の意思決定その1．月刊総合ケア，17(8)，61 - 68.

箕岡真子（2010）．認知症終末期ケアにおける事前指示書（本人の願望）の重要性と今後  
の展望．認知症ケア事例ジャーナル，3(1)，91 - 98.

見藤隆子・小玉香津子・菱沼典子編．看護学事典第2版．日本看護協会出版会．164.

大平整爾（2010）．認知症患者への透析療法—倫理的側面からの小考察—．日本透析医会  
雑誌，25(2)，188.

瀬戸山陽子（2012）．意思決定のための資源とその活用．中山和弘・岩本貢編．患者中心の  
意思決定支援．185．中央法規.

白髭豊，川越正平（2008）．病院と診療所との連携．江口研二編．在宅緩和のケアのための  
地域連携ガイド．66.

総務省統計局平成22年国勢調査人口等基本集計．

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm> [2011-10-26]

吉澤徹（2002）．チーム医療の実際．鷹野和美編．チーム医療論．医歯薬出版株式会社．  
58.

#### 参考文献

- 赤林朗, 稲葉一人, 児玉聡, 堂園俊彦, 奈良雅俊他 (2005). 入門・医療倫理. 勁草書房
- Fukunishi I, kitaoka T, shirai T, et al (2002), Psychiatric disorders among patients undergoing hemodialysis therapy. *Nephron*, 91(2), 344-347
- 藤村賢訓 (2009). 高齢者医療における治療方針の決定と代諾者の役割—英国の制度を参考に—. 大分大学経済論集, 61(1), 51-69.
- 石井トク (2008). 現代社会の倫理を考える 1 看護の倫理学第 2 版. 丸善株式会社. 16.
- 小林亜津子 (2010). 看護が直面する 11 のモラルジレンマ. ナカニシヤ出版. 238-261
- 箕岡真子 (2009). 生命倫理の視点から見たアルツハイマー病終末期の人工水分栄養補給. 癌と化学療法, 36, 72-74.
- 箕岡真子 (2010). 認知症ケアの倫理. ワールドプランニング, 111
- 中山和弘, 岩本貴, 岩本ゆり他 (2012). 患者中心の意思決定支援. 中央法規
- Nancy L. Diekelmann, 堀内成子監修 (2006). あなたが患者を傷つけるとき～ヘルスケアにおける権力、抑圧、暴力～. エンゼビア・ジャパン
- サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン (2008). 看護実践の倫理第 3 版倫理的意思決定のためのガイド. 片田範子, 山本あい監訳 (2010). 日本看護協会出版会
- 田村幸子 (2007). 高齢維持透析患者の日常生活の現況・問題点と支援. 臨床透析, 23 (8), 53 - 58